

# DVのない社会に向けて

佐賀県DV総合対策センター所長 原 健一 さん



配偶者等からの暴力、いわゆるDVに対する取り組みは進んでいるものの依然としてその数は減らず、殺傷事件に発展したり低年齢化が進むなど深刻な社会問題となっています。

今号では、2001年に加害者男性に対する非暴力ワークプログラムを行う「メンズサポートふくおか」を設立し、現在は佐賀県DV総合対策センター所長として配偶者等からの暴力の被害者支援、加害者更生に取り組む原健一さんにお話を伺いました。

## DV被害者の支援に取り組む

佐賀県DV総合対策センターでは、民間支援団体を始めDV被害者支援関係機関、団体が連携して取り組むDV被害者支援施策の総合調整、決定を行っています。また、加害者を生まないための予防教育、いわゆる「未然防止教育」にも力を入れています。

DV被害者を守り再生を支援すると同時に、加害者にも更生してもらう。さらにもう一步進めて、DVを生まないための教育が重要だと考えています。

私は2001年から、福岡県内の病院でDV被害者女性を支援するための「DV外来」を立ち上げカウンセリングにあたりながら、同時に「男性のための非暴力ワーク」として加害男性の希望者を対象に更生プログラムも行ってきました。

そこではまず加害者の話を聞き、彼の成育歴や現在の環境、DVを容認している原因などを一緒に考えながら変化を促します。また数名のグループを作り他人の加害経験も聞きながら、「自分がやったことは間違ったことだ」と正しく認識してもらいます。加害者がDVを自身の中で正当化しているうちは本当の更生は難しいので、ここは重要なポイントですね。

## 予防教育の重要性

近年はデートDVに見られるような、DVの低年齢化が進んでいます。リベラルな教育を受けてきたはずの若い世代にこのような問題が起こっているのは残念ですが、裏を返せばやはりいまだに家庭、学校、社会の中に男女共同参画の意識が根付いていないことの表れといえます。

同じような教育を受けてきても、やはり女性の中には「女性は男性に従うべき」という根強い女性像があり、同じように男性にも「男は強くあるべき」という男性像がある。それが「男性による支配」という構図を生んでしまっているように思います。そのためにも若い世代への予防教育は重要です。

最近では学校現場でもこの取り組みが始まっています。まずは子どもたちにDVに対する正しい情報を提供し、男女は対等な関係であることを知ってもらわなければなりません。これはDVを未然に防ぐだけでなく、被害者の早期発見にもつながります。また、両親間にDVのある家庭の子どもを早期に発見し、支援するためにも教育現場の果たす役割は重要です。

DVは誰にとっても起こりうる身近な問題です。他人事だと考えず、より多くの人に関心を持ってもらいたいですね。

### プロフィール

Profile 原 健一

(はらけんいち) 1967年生まれ  
佐賀県DV総合対策センター所長

2001年、DV加害者男性に対して非暴力ワークプログラムを行う「メンズサポートふくおか」を設立。福岡県内の精神科病院ではDV被害者女性を支援するために「DV外来」を立ち上げ、同時に心理士としてカウンセリングにあたる。  
2003年「熊本県DV加害者研究チーム」研究員を経て、2005年より高校生向け「DV未然防止教育」の授業を担当する。  
これまで佐賀県内外含め230校以上、約4万5千人の生徒に若年層における男女間の暴力の実態を伝える。  
平成19年4月より現職  
内閣府「女性に対する暴力に関する専門調査会」委員他、男女共同参画やDVに関する審議会の委員を歴任

## 特集

# DVひとりで悩まないで

NO DV! YES SMILE  
笑顔はさっとうもどせる



ドメスティック・バイオレンス

## DVはごく身近で起こっています

平成22年度に鹿児島市が実施した市民意識調査によると、配偶者からの身体的暴力が「1、2度あった」「何度もあった」と答えた人は、女性では約3人に1人、男性では6人に1人に上ります。

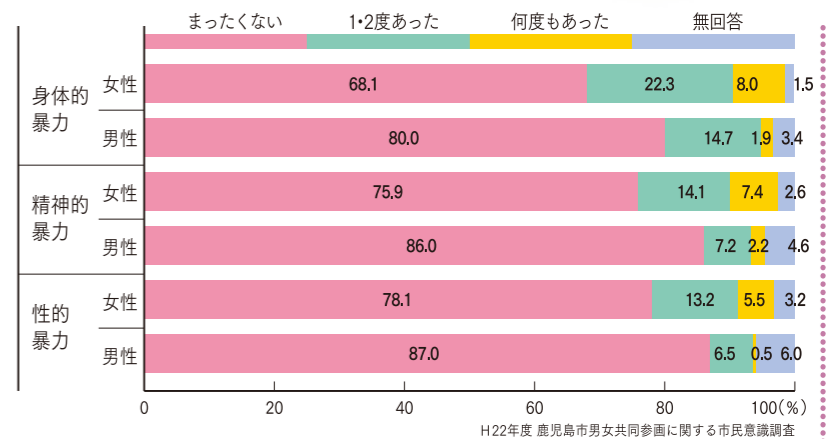
DVは犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害であり、被害者の心や体に深刻な影響を与えます。

本人や周囲の早めの相談が、事態の深刻化を防ぐカギになります。

## DVとは…

DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、「配偶者や恋人など親密な関係にある、またはあった者から振るわれる暴力」のことをいいます。「暴力」の形態はさまざま、身体的、精神的、性的、経済的など、多面的な要素を含み、多くの場合その被害者は女性です。平成24年の警察庁の統計では、暴力相談等の対応件数が43,950件と、5年前に比べて2倍以上になっているほか、配偶者(内縁を含む)に殺害された女性は93人に上っており、DVは生命に関わる深刻な問題となっています。

配偶者からのDV被害経験の有無(性別・暴力種類別)



警察における暴力相談等の対応件数

